

公益社団法人 日本実験動物学会 功労賞 受賞者

令和5年	喜多 正和	高倉 彰			
令和4年	大和田一雄	局 博一	松本 清司		
令和3年	浦野 徹	八神 健一			
令和2年	岩倉洋一郎	黒澤 努			
令和元年	伊藤喜久治	小幡 裕一	芹川 忠夫		
平成30年	伊藤豊志雄	笠井 憲雪			
平成29年	鈴木 照雄	米川 博通			
平成28年	須藤カツ子	吉川 泰弘			
平成27年	関口富士男				
平成26年	鍵山 直子	高木 博義	土井 邦雄		
平成25年	佐藤 浩				
平成24年	朱宮 正剛	西村 正彦			
平成23年	玉置 憲一				
平成22年	倉林 讓				
平成21年	豊田 裕				
平成20年	長 文昭				
平成19年	佐藤 徳光	辻 紘一郎	武藤 健		
平成18年	山内 一也				
平成17年	前島 一淑	降矢 強			
平成16年	森脇 和郎	早川純一郎	江崎孝三郎	宮寫 宏彰	
平成15年	松下 宏	中村 経紀	波岡 茂郎	長澤 弘	高垣 善男
平成14年	奥木 実	堀内 茂友	光岡 知足	福井 正信	
平成13年	富永 聡	半田 純雄	信永 利馬		
平成12年	猪 貴義	中野 健司	本庄 重男		
平成11年	輿水 馨	仲川 憲一	山之内孝尚		
平成10年	佐藤 善一	藤原 公策			
平成9年	田中 利男				
平成8年	今道 友則				
平成6年	山内 忠平				

公益社団法人 日本実験動物学会 安東・田嶋賞

令和5年	久和 茂
令和4年	庫本 高志
令和3年	伊川 正人
令和2年	高橋 智
令和元年	浅野 雅秀
平成30年	中潟 直己
平成29年	佐々木 えりか
平成28年	小倉 淳郎
平成27年	伊藤 守
平成26年	山村 研一
平成25年	岡部 勝 芹川 忠夫
平成24年	岩倉洋一郎
平成22年	鳥居 隆三
平成21年	松本 耕三
平成19年	伊藤 豊志雄
平成18年	米川 博通
平成17年	国枝 哲夫
平成14年	樋野 興夫
平成13年	横山 峯介
平成12年	水谷 誠
平成11年	牧野 進
平成9年	西村 正彦

公益社団法人 日本実験動物学会 奨励賞		
令和5年	吉沢 隆浩	
令和4年	Mark Joseph Maranan Desamero	村山 正承
令和3年	佐々木 隼人	
令和2年	奥村 和弘	倉岡 睦季
令和元年	井上 貴史	宮田 治彦
平成30年	濱田 理人	和田 健太
平成29年	長谷川 賀一	藤原 祥高
平成28年	水野 聖哉	
平成27年	吉見 一人	香月 康宏
平成26年	金子 武人	小池 智也
平成25年	成瀬 智恵	新美 君枝
平成24年	竹尾 透	
平成23年	本多 新	高林 秀次
平成22年	高田 豊行	橋本 晴夫
平成21年	越後貫 成美	林元 展人
平成18年	権 仲基	高橋 英機
平成17年	大野 民生	
平成16年	吉川 欣亮	真下 知士
平成15年	設楽 浩志	横井 伯英
平成14年	庫本 高志	
平成13年	北田 一博	高橋 利一
平成12年	平澤 健介	森 政之
平成11年	伊川 正人	小倉 淳郎
平成10年	山海 直	
平成9年	平山 和宏	
平成8年	杉山 文博	
平成7年	清澤 岩水	木村 透
平成6年	中潟 直己	

公益社団法人 日本実験動物学会 学会賞	
(若手研究者対象, 平成5年表彰後終了)	
平成5年	近藤 靖
平成4年	山崎 寛治
平成4年	海老野 耕一
平成3年	芹川 忠夫
平成2年	鍵山 直子(代)
平成2年	松本 清司
昭和63年	伊藤 喜久治

## Experimental Animals 最優秀論文賞

### 2022 年

大野民生、宮坂勇輝、吉田勘太、小林美里、堀尾文彦、横井伯英、水野正司、池上博司

[A novel model mouse for type 2 diabetes mellitus with early onset and persistent hyperglycemia](#)

「早期発症し持続的高血糖を示す新たな2型糖尿病モデルマウス」

川上浩平、松尾裕之、梶谷尚世、山田高也、松本健一

[Comparison of survival rates in four inbred mouse strains under different housing conditions: effects of environmental enrichment](#)

「4系統の近交系マウスにおける異なる居住条件下での生存率の比較：環境エンリッチメントの影響」

マクシェヴァ ユリア、鄭 琇絢、秋津 葵、前田菜摘、丸橋拓海、葉 暁琪、海部知則、西城 忍、孫 海陽、韓 偉、唐 策、岩倉洋一郎

[The C-type lectin receptor Clec1A plays an important role in the development of experimental autoimmune encephalomyelitis by enhancing antigen presenting ability of dendritic cells and inducing inflammatory cytokine IL-17](#)

「C型レクチン受容体 Clec1A は、樹状細胞の抗原提示能を高めるとともに炎症性サイトカイン IL-17 を誘導することにより、実験的自己免疫性脳脊髄炎の発症に重要な役割を果たしている」

### 2021 年

今井 啓之、津田 宗一郎、岩森 督子、加納 聖、日下部 健、小野 悦郎

[Establishment of a novel method for the production of chimeric mouse embryos using water-in-oil droplets](#)

「オイルドロップレットを用いたマウスキメラ胚の作出法の確立」

### 2020 年

菅沼栄介、佐藤 智、本田聡子、中澤温子

[A novel mouse model of coronary stenosis mimicking Kawasaki disease induced by \*Lactobacillus casei\* cell wall extract](#)

「*Lactobacillus casei* cell wall extract により誘導した川崎病冠動脈狭窄の新規モデルマウス」

### 2019 年

橋本晴夫、江藤智生、山本真史、位高美香、後藤元人、香川貴洋、小島圭介、川井健司、秋元敏雄、高橋利一

[Development of blastocyst complementation technology without contributions to gametes and the brain](#)

「生殖細胞および大脳に寄与しない胚盤胞補完法技術の確立」

## 2018年

秋山健太郎、藤 栄治、岡田浩介、柳川 徹、石井哲郎、巨瀬勝美、徳重克年、石毛和紀、溝上裕士、山縣憲司、鬼澤浩司郎、有泉俊一、山本雅一、正田純一

[Deletion of both \*p62\* and \*Nrf2\* spontaneously results in the development of nonalcoholic steatohepatitis](#)

「p62:Nrf2 二重欠損マウスは非アルコール性脂肪性肝炎を自然発症する」

## 2017年

高橋 剛、長谷川清香、福富友紀子、原田千鴻、古郡真宗、関 優太、吉川欣亮、和田健太

[A novel missense mutation of \*Mip\* causes semi-dominant cataracts in the \*Nat\* mouse](#)

「Nat マウスの半優性白内障を引き起こす Mip の新規ミスセンス変異」

## 2016年

西谷あい、田中美有、清水佐紀、國澤直史、横江繭子、吉田裕作、鈴木登志郎、佐久間哲史、山本 卓、桑村 充、竹中重雄、大野行弘、庫本高志

[Involvement of aspartoacylase in tremor expression in rats](#)

「アスパルトアシラーゼ遺伝子は本態性振戦の発症に関与する」

## 2015年

本多 新、廣瀬美智子、山海 直、ヤスミン ルブナ、湯澤和明、本勝希実子、伊豆美奈、井口 純、伊川正人、小倉淳郎

[Single-step generation of rabbits carrying a target allele of the tyrosinase gene using CRISPR/Cas9](#)

「CRISPR/Cas9 を用いた簡便なウサギチロシナーゼ遺伝子の破壊」

## 2014年

秋津 葵、角田 茂、西城 忍、岩倉洋一郎

[Rag2-deficient IL-1 Receptor Antagonist-deficient Mice Are a Novel Colitis Model in Which Innate Lymphoid Cell-derived IL-17 Is Involved in the Pathogenesis](#)

「新規大腸炎モデルである Rag2<sup>-/-</sup>Il1rn<sup>-/-</sup> マウスにおいては ILC3 細胞由来 IL-17A が病態形成に重要な役割を果たしている」

## 2013年

宮坂勇輝、鈴木沙理、大芝泰弘、渡部 桂、相良嘉彦、安田俊平、松岡邦枝、設楽浩志、米川博通、木南 凌、吉川欣亮

[Compound Heterozygosity of the Functionally Null \*Cdh23\*<sup>v-\*ngt\*</sup> and Hypomorphic \*Cdh23\*<sup>ahl</sup> Alleles Leads to Early-onset Progressive Hearing Loss in Mice](#)

「マウスにおけるカドヘリン 23 の機能欠損 *Cdh23*<sup>v-*ngt*</sup> アレルとハイポモルフ *Cdh23*<sup>ahl</sup> アレルのヘテロ接合体は早発性・加齢性難聴を発症する」

## 2012年

関口有佳里、大和田淳也、大石久史、勝又斗紀夫、池田香理、工藤 崇、高橋 智

[Noninvasive monitoring of  \$\beta\$ -cell mass and fetal  \$\beta\$ -cell genesis in mice using bioluminescence imaging](#)

「生物発光イメージングを利用した $\beta$ 細胞マスと胎仔 $\beta$ 細胞新生の非侵襲的検出」

## 2011年

庫本高志、桑村 充、田上 史、真下知士、能勢真人、芹川忠夫

[Kyoto Rhino Rats Derived by ENU Mutagenesis Undergo Congenital Hair Loss and Exhibit Focal Glomerulosclerosis](#)

「ENUミュータジェネシス由来のKyoto rhino ラットは先天性脱毛と巣状糸球体硬化症を示す」

奥村 仁、宮坂勇輝、森田由香、野村智幸、三嶋行雄、高橋 姿、木南 凌

[Bcl11b Heterozygosity Leads to Age-Related Hearing Loss and Degeneration of Outer Hair Cells of the Mouse Cochlea](#)

「*Bcl11b* ヘテロ遺伝子型はマウスに加齢性難聴と蝸牛外有毛細胞の変性をもたらす」

## 2010年

石飛博之、松本 健、浅見拓哉、伊東史子、伊東 進、高橋 智、依馬正次

[Flk1-GFP BAC Tg Mice: An Animal Model for the Study of Blood Vessel Development](#)

「*Flk1*-GFP BACトランスジェニックマウス：血管発生研究のための動物モデル」

## 2009年

目加田和之、阿部訓也、村上亜弓、中村哲枝、中田初美、森脇和郎、小幡裕一、吉木 淳

[Genetic Differences among C57BL/6 Substrains](#)

「C57BL/6 亜系統間の遺伝的相違について」

## 2008年

松井謙一、太田 毅、小田知洋、笹瀬智彦、上田順久、美谷島克宏、益山 拓、篠原雅巳、松下睦佳

## 2007年

森 政之、澤下仁子、樋口京一

## 2006年

藤本和則、小石龍太、清水川哲也、安藤洋介

## 2005年

稲垣秀晃、桑原正貴、局 博一

## 2004年

野口 章、竹川奈穂、Thorbjorg Einarsdottir、小浦美奈子、野口洋子、高野 薫、山本美江、松田潤一郎、鈴木 治

## 2003年

横井伯英、生江美佐子、布施雅規、王 賀謠、米田嘉重郎

## 2002年

八田友紀、金井朋子、松本芳嗣、久和 茂、早坂郁夫、吉川泰弘

## 2002年

古澤昌士、桑原正貴、石井圭司、岩倉洋一郎、局 博一

## 2001年

山田宜永、三宅 武、杉浦賢吉、成田 暁、Kaichun WEI、Suwen WEI、Daniel H. MORALEJO、荻布智恵、Claude GAILLARD、佐々木義之、松本耕三

## 2000年

吉野直人、網 康至、寺尾恵治、田代文夫、本多三男

## 1999年

鈴木 亘、飯塚生一、田淵雅宏、布野秀二、柳澤利彦、木村正幸、佐藤俊次、遠藤 徹、川村秀樹

## 1998年

成島聖子、伊藤喜久治、光岡知足、中山裕之、伊藤豊志雄、日置恭司、野村達次

## 総会 優秀発表賞

### 第70回総会 優秀発表賞

岸本恵子<sup>1)</sup>、ペンフォールド クリストファー<sup>2)</sup>、上岡美智子<sup>1)</sup>、フー フアイユ<sup>3)</sup>、ボロビアーク ソーステン<sup>2)</sup>、佐々木えりか<sup>1)</sup>

「疑似着床培養コモンマーモセット胚の解析」

1) 実中研、2) ケンブリッジ大学、3) アップステイト医科大学

小林良祐<sup>1)</sup>、川端麗香<sup>2)</sup>、杉山真言<sup>3)</sup>、小山徹也<sup>4)</sup>、大塚正人<sup>5)</sup>、堀居拓郎<sup>1)</sup>、森田純代<sup>1)</sup>、西山正彦<sup>2)</sup>、畑田出穂<sup>1)</sup>

「In vivo ゲノム編集による子宮内膜がんモデルマウスの迅速作製」

1) 群馬大学生体調節研究所ゲノム科学リソース分野、2) 群馬大学未来先端研究機構、3) 北里大学獣医学部、4) 群馬大学医学系研究科、5) 東海大学医学部

松本翔馬<sup>1)</sup>、守村敏史<sup>1)</sup>、森重悦子<sup>2)</sup>、沼田洋輔<sup>2)</sup>、依馬正次<sup>1)</sup>

「常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）モデルカニクイザルのヒト疾患モデルとしての有用性」

1) 滋賀医科大学動物生命科学研究センター、2) 株式会社新日本科学

脇本 新<sup>1,2)</sup>、全 孝静<sup>3)</sup>、野田篤志<sup>2)</sup>、廖 晉緯<sup>1,2)</sup>、林 洋平<sup>4)</sup>、濱田理人<sup>2)</sup>、高橋 智<sup>2)</sup>

「経胎盤移植によって移植されたヒト臍前駆細胞は臍欠損マウスの生存に寄与する」

1) 筑波大学グローバル教育院ヒューマンバイオロジー学位プログラム、2) 筑波大学医学医療系解剖学発生学研究室、3) 筑波大学医学医療系幹細胞治療研究室、4) 理研バイオリソースセンター

### 第69回総会 優秀発表賞

嶋田 圭祐<sup>1)</sup>、Park Soojin<sup>1)</sup>、宮田 治彦<sup>1)</sup>、Zhifeng Yu<sup>2)</sup>、諸星 茜<sup>1)</sup>、大浦 聖矢<sup>1)</sup>、Martin M. Matzuk<sup>2)</sup>、伊川 正人<sup>1)</sup>

「ARMC12 は TBC1D21 と協働してミトコンドリア鞘形成を可能にする」

1 大阪大学 微生物病研究所、2 ベイラー医科大学

村田 知弥<sup>1)</sup>、大徳 陽子<sup>2)</sup>、水野 聖哉<sup>1)</sup>、杉山 文博<sup>1)</sup>

「in vivo BioID の確立と新規うつ様行動制御因子の同定」

1 筑波大学医学医療系、2 筑波大学生命科学動物資源センター

吉見 理子<sup>1)</sup>、金子 麻里<sup>1)</sup>、阿部 高也<sup>1)</sup>、白石 亜紀<sup>1)</sup>、井上 健一<sup>1)</sup>、古田 泰秀<sup>1,2)</sup>、清成 寛<sup>1)</sup>

「ゲノム編集による遺伝子改変有袋類の作製」

1 国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター 生体モデル開発チーム、  
2 Mouse Genetics Core Facility, Sloan Kettering Institute, Memorial Sloan Kettering Cancer Center